



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(3)

【概要】

令和6年7月12日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて理工学部 長田 聡史 教授と先進健康科学研究科(理工系)の大学院生らが本年度3回目の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により行っています。実験を通して理科への興味を喚起し、子どもたちの就学意欲を芽生えさせることを目的としています。大学が不登校支援機関に対して行う理科実験教室は全国でも数少ない活動です。平成17年に当時の工学系研究科 児玉 浩明 教授(現佐賀大学長)が始めてから現在まで継続しており、今年で20年目を迎えます。これまでに数多くの大学生、大学院生がボランティアとして参加してきています。

令和6年度第3回は7月12日(金)に実施されました。理工学部化学部門 長田 聡史 教授とともに理工学理工学科生命化学コースの学部生が「COD 測定で水の汚れを調べよう!」と題して、理科実験を行いました。この実験では、有機物による汚濁状況の代表的な指標である化学的酸素要求量(COD)を測定するための試薬を調製し、水質検査を行いました。

実験では、まず本学名誉教授の黒河 伸二先生が考案した簡易CODの測定キットを、水酸化ナトリウムや過マンガン酸カリウムを用いて作成しました。子どもたちは保護メガネにゴム手袋を着用し、作業を分担して慎重に試薬を混合し、調製を行いました。測定対象の試料として、佐賀大学から雨水、海水、ため池の水、牛乳などの飲料を千倍に希釈したものなどを用意しました。さらに、実験中に教育支援センターの教員が近くの水路から採取した試料も加えました。身近な水の測定に興味をもった子どもたちは、自分が普段飲んでいる天然水など試料を率先して選び、試薬でCOD測定を行っていました。

子どもたちは、見た目から結果を予想したり、意外な結果に考え込んだりする姿勢を見せ、ボランティアで参加した大学生らも感心していました。



「理科実験教室」の様子